

第42回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 令和6年12月17日（火）14:00～14:43

2. 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室

3. 出席者 原子力委員会

上坂委員長、直井委員、岡田委員、小笠原参与
内閣府原子力政策担当室
山之内参事官、武藤参事官

4. 議 題

- (1) 原子力アウトリーチ活動の報告
- (2) その他

5. 審議事項

(上坂委員長) 時間になりましたので、令和6年第42回原子力委員会定例会議を開催いたします。

本日の議題ですが、一つ目が、原子力アウトリーチ活動の報告、二つ目が、その他であります。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

(山之内参事官) 一つ目の議題、原子力アウトリーチ活動の報告についてでございます。文部科学省研究開発局原子力課課長、有林浩二様から御説明いただき、その後質疑応答の予定でございます。

本件は原子力利用に関する基本的考え方3の9、原子力利用の基盤となる人材育成の強化に主に関連するものとなります。

それでは、有林課長から御説明よろしくをお願いいたします。

(有林課長) 文部科学省原子力課長の有林です。本日はよろしくをお願いいたします。

それでは、資料に基づきまして、文部科学省で行っております人材育成の活動の一つであります高校生を対象にした原子力オープンキャンパスにつきまして、資料を用いて説明をさ

させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、めくっていただきまして、2ページ目でございますけれども、このイベントの背景について説明をさせていただきますが、文科省では人材育成の事業の一環の中で、ANECと呼ばれるコンソーシアムを立ち上げております。このコンソーシアムには現在、大学、研究機関、そして産業界が中心に66機関が参画頂いている状況でございます。大学、産業界が連携をして原子力の人材を育成していこうということで、様々な取組を行わせていただいておりますが、高校生・高専生を対象にしました原子力教育・研究を行っている大学の学科や専攻、そして原子力分野の仕事としてどのような企業があるのかについて関心を持ってもらうために原子力のオープンキャンパスを実施しております。

初めて実施しましたのが昨年、令和5年のこととして、第1回目は近畿大学さんに御協力を頂き、近大炉を用いた実習と、大学・企業が参加するポスターセッションを行わせていただき、約30名の参加者を得て実施することができました。

ただ、1回目のフィードバックとしまして、参加する学生から規模を増やしてほしいというような強い御要望がございましたので、2回目となる今年においては、東工大、現科学大でございますが、そちらの小原先生に御協力を頂く形で、今年の7月23日に開催をしたところでございます。

下にイベントの概要がございますが、実は当初予定よりも実験をやりたいという人が多かった関係で、実験は翌日の24日にも追加で実施してございます。

場所につきましては、科学大、参加者につきましてはポスターセッション、講演の方には173名、そして実習の方には37名の参加者を得ることができました。

実際にこちらのイベントは文科省、科学大、そしてANECも共催で行いましたけれども、今回も66機関の中から大学14機関、研究開発法人1機関、企業7機関、計22機関に参加を頂きました。

それでは、オープンキャンパスの具体的な内容について、説明をさせていただきます。

大きく2部構成になってございまして、午前中は実習ということで、科学大にありますペレトロン加速器を用いた実験を行いました。また、午後からは講演会とポスターセッションを行いました。左の方にプログラムがございますが、講演の一つ目としまして、空想科学研究所の柳田理科雄先生、皆さんも御承知のように空想科学読本の著者でございます。「ヒーローたちのエネルギー」という題目で、まさに身近にあるファンタジーの世界から実際のエネルギーをどのように捉えるかという大変面白いお話を伺いました。講演の二つ目としまし

では、フュージョンをテーマに、スタートアップ企業であります京都フュージョニアリングの武田氏から、何かから新しいものをつくるというような考えに立ちまして、武田氏のこれまでの生き方ということも交えながら、どのように新しいものにチャレンジしていくか、高校生に向けて熱いメッセージを頂いたところでございます。

実際にこのオープンキャンパス自体、右側に示してございますチラシやポスターを作成して応募を募ったわけですが、今回、科学大の小原先生は、特に今ネットの時代ですが、ネットで周知をするのではなく、約5,000校の全国の高校、高専の理科の担当の先生に直接ポスターやチラシを郵送し、そして理科の先生経由で高校・高専において原子力に興味を持つ学生に直接働きかけをしてもらうという試みを行いました。

その結果としまして、先ほど申し上げたように173名の参加者ということで、去年よりも6倍近い参加者を得ることができました。

次のページになりますが、実際に第1部、第2部でどのようなことを行ったのかご説明いたします。第1部は、科学大にございますペレット加速器を用いて、実践的な学びの場として加速器を使った中性子測定の実験等を行いました。先ほども申し上げましたが、当初は定員15名でしたが、想定以上の応募があり、応募者全員が体験できるように、翌24日、急遽2回目の実習の機会というのを設けまして、合計2日間で37名の高校生と高専生が参加をした結果となっております。

実験につきましては、リチウムターゲットの反応で発生した中性子の測定であったり、銀の反応で発生した γ 線の測定、ポリエチレン中の中性子減速による反応率変化の観測、銀の中性子捕獲反応により生成された不安定原子核から崩壊 γ 線の観測ということで、常日頃教科書で学んでいるようなことを実体験として経験できるような場を提供したところでございます。

次に、第2部の講演会の方でございますが先ほど申し上げました柳田理科雄氏と武田秀太郎氏からそれぞれ講演を頂きました。右の方に参加者の内訳がございます。先ほど173名の参加者と申し上げましたが、そのうち約3分の1が女子生徒という結果が得られております。また、1年生3割、2年生6割ということで、高校生の中でも1年生、2年生を中心とした参加者が得られたというところでございます。

また、一番下の方でございますけれども、それぞれどこから科学大のイベントに参加されたかというところをアンケートしました。首都圏であります東京、千葉、埼玉、神奈川からの参加は約3分の2の66%、残りの3分の1はそれ以外の府県からで、こちらに書いてご

ございますように、山形、福島、茨城、栃木、群馬、新潟、富山、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、京都、大阪、兵庫、広島、徳島と、まさに全国から参加を頂いたという結果になってございます。

次のページでございます第2部の後半で行いましたポスターセッションにおいては、大学、研究機関、原子力関係の企業の方々にポスターを御用意いただき、生徒とまさに1対1で議論を交わしていただく場を設けさせていただきました。私もポスターセッションに参加させていただきましたが、限られた時間の中で全てのブースで人が途切れることなく、学生が真剣にたくさん質問をしている姿に大変驚いたところです。

次に、学生にアンケートを取った結果でございます。回収率としましては約86%の回収率を得ているところでございます。まず、7ページ目の方で、講演会とポスターセッションについてどのような印象だったかという質問です。御覧になっていただきますとおり、講演会でございますが、紫色で示しておりますとても面白かったという回答が二つの講演とも8割を超えるという結果が出ております。また、ポスターセッションにつきましても、こちらも紫のとてもよかったというものが約8割の回答となっております。

自由記述では、大学や企業のポスターセッションを見て、どんな学部があるのか、どんな職業があるのかを詳しく知ることができたという回答であったり、原子力に特に興味を持って参加したわけではないが、一つの進路の選択肢として原子力を考えることができるようになったという回答もありましたので御紹介をさせていただきます。

次に8ページ目の方では、実習実験についてのアンケートの結果でございます。まず一つの質問として、実習内容自体が理解できたかどうかにつきましては、こちら本当に正直な答えとして、よく理解できたとだいたい理解できたと少し理解できたというのがほぼ均等に3分の1ずつで割れているという状況でございます。ただ、結果として今回の実習自体があなたにとって有意義でしたかという問いについては、7割の方がとても有意義だったという回答結果が得られております。

自由記述欄の方にそれぞれの自由なコメントございますけれども、参加した人が1年生、2年生が多かったんですが、1年生にとっては多少難しかったかもしれないですが、有意義な時間を過ごせたという感想であったり、また学校で習ったことが実験を通して親近感が湧いた、中性子やγ線というものをリアルタイムで見ることができ原子力への関心が一層高まった、という回答が得られております。

最後でございますが、今回参加者の原子力への関心度に関してアンケートを取らせてい

いただきました。参加することによって原子力への関心が増えたかどうか、原子力分野の仕事への関心が増えたかどうか、大学で行っている原子力の勉強や研究に関心が増したかどうかという質問をさせていただきましたが、いずれも紫のとても増したと、緑の少し増したというところを合わせますと、参加者の9割以上が原子力分野への関心が増えたという回答をしていただいたところでございます。

自由記述欄にもございますが、かなり貴重な機会となった、将来の願望を全く持っていない、どういった学部に行きたいのかというところも少し決まっていなかったが、このオープンキャンパスを通して原子力の比重がとて大きくなった、というかなり評価していただくようなコメントも得られたところでございます。

以上、オープンキャンパスの全体の取組を説明させていただきました。この文部科学省が行っております人材育成事業は7年間の事業でございますが、ちょうど今年が5年目に当たりまして、残り2年という状況になってございます。我々としましても、これまで様々な良い取組が出ておりますので、これをいかに継続的に実施していくのかという点につきまして、経済産業省はじめ関係省庁や産業界ともしっかりと対話をしながら、今後に向けて更に発展させるように取り組んでいきたいと考えております。

引き続き御支援の方をよろしくお願いいたします。

私からの説明は以上でございます。

(上坂委員長) 有林課長、説明ありがとうございました。

それでは、原子力委員会から質問をさせていただきます。それでは、直井委員から。

(直井委員) どうも、有林課長、御説明ありがとうございました。

とてもよい取組で、今回は参加者も多くてとてもよかったなというふうに思いました。

7ページのところに、企画に対する感想・評価のアンケート結果が出ておりましたけれども、参加者の感想が非常に良好で、講演会ですとかポスターセッションなどを通じて参加者自身が大学でどういう学びができるのか、将来のキャリアパスについて考える上で非常によい機会になったというふうに思いました。

引き続きこういう原子力オープンキャンパスは継続していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(有林課長) はい、直井委員、どうも温かいお言葉、ありがとうございます。

我々としましても、このオープンキャンパスの取組につきましては、まさに高校生に対して原子力に直接触れる機会であったり、また世の中にどのような学び場、そして働く場があ

るのかという情報を提供する上でとてもいい機会だと思っております。私も直接参加して、学生とも意見交換をしましたが、やはり高校生の中には原子力を学びたくてもどこで学べるのか分からないという意見を多く聞かれましたので、我々このANECの中でもまさにそういった学生に対してしっかりと興味を持っている方にしっかりと学んでいただく機会を提供するのがこのANECの目的でもございますので、このオープンキャンパスをはじめ、ANECの取組自体をしっかりと今後も続けていきたいというふうに考えております。

ありがとうございます。

(直井委員) どうもありがとうございました。

それで、ANECについて、最後にお話ございました7年の計画で、残りあと2年だということでしたけれども。ANEC、とてもすばらしい取組で、北大が中心となってMOOCですね、マッシュアップオープンオンラインコースですね、この提供では非常に大きな成果を上げていて、あと2年で終わってしまうというようなことだったんですけども、原子力人材の育成ニーズというのはこれから高まっていくというふうに思いますので、是非何らかの形でつなげていていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(有林課長) 御指摘ありがとうございます。我々の方もANECの活動自体、これまでいい成果を数多く上げていると思っておりますので、我々の方も今後、残り2年ですが、まずは2年間引き続き取り組むと共に、まさにこの7年間の成果をどのようにして取りまとめていくのか、そしてまた残り2年間の中での課題としましても、裾野を広げていくというような取組を今行っております。そういった活動を残り2年でしっかりと取りまとめていくということと共に、令和9年度以降につきましても、並行的に議論をさせていただきたいと思っております。

やはり持続的に実施していくという意味においては、当然国として支援することもございますが、それ以外にも関係省庁や、産業界ともしっかりと連携していくことも大切だと思っておりますので、そのような様々な可能性を今後検討していきたいと考えております。

(直井委員) どうもありがとうございました。

最後なんですけれども、北大がキーになってつくっているMOOCなんですけれどもね、とてもいい講義がいっぱい詰まっているんですけども、高校生とかがアクセスする場合、一体自分はどのような仕事に就けるんだとか、キャリアモデルといいますかね、どのような仕事があるんだというようなことが分かるようなオンラインのコースがあると非常にいいんじゃないかなと思うので、ちょっとご検討いただけたらなと思いました。

以上です。

(有林課長) 御指摘ありがとうございます。

今まさに御指摘いただきましたように、裾野を広げていくという段階において、若い高校生や中学生あたり、そういった方々がアクセスできるようなコンテンツも拡充させていきたいと思っています。また、このコンテンツをどのようなもの、何を学べばどういった知識が得られるのかという点につきましても、できるだけ体系化をして、学ぶ側の方が分かりやすい形でこのコンテンツを利用できるように、様々なユーザーの要望も聞きながら、しっかりと改善を行って、より使い勝手のいいものにしていきたいと思っておりますので、今後とも御支援のほどよろしくお願いいたします。

(直井委員) どうもありがとうございます。よろしく申し上げます。

私からは以上です。

(上坂委員長) それでは、岡田委員、お願いいたします。

(岡田委員) 有林様、どうもありがとうございます、御説明。

私の方は、去年、近大炉、女子が多くて非常に好評だったというのが非常に印象に残っていて、今年も東工大、現の東京科学大学ですが、実施して女性が3分の1集まったということ。それと、学年が2年生が57%ということで、進学を考えている学生が来ているんだなというのがすごくよく分かってうれしく思っております。

有林様の話を聞いて思い出したんですけれども、もともと原子力学会で原子力オープンスクールというのをやっていたんですね。私も東工大のも一緒にやって、お隣の東京都市大学ですが、そちらでもやっていて、協力しながらやっていたときに、理科の先生に直接通信する、書類を渡すのがいいんだという結論に達してたんですね、あの頃ね。なので、東工大の先生たちがそれをずっと続けて継承してきたからこういう生徒が出たんだと私は非常に喜んでおります。やっぱり理科の先生に直接というのが、校長先生ではなくて、担当の先生というのが全国の人たちを集める基礎になっていったんだなと思って、何か感慨深いというか、思いました。

それで、これを全国に広げるといのはどういうふうにしたらいいかと思うんですが、東工大はやっぱり憧れの大学なんですよ。今の科学大学ですけれども。そういう拠点になるような大学がこういうことを実施したらいいなと思うんです。例えば北海道だったら北大とか、そういうふうにして広げる可能性ってありますでしょうか。

(有林課長) 御指摘どうもありがとうございました。

前半部分については私も知らないところでしたので、お話をお伺いして私自身が本当にそのような経緯を知ってすごく感動いたしました。

後半の今後拡大していくかという点につきましては、まさにANEC自体今後どうしていくのかという論点で今まさに参加いただいている大学の先生方と議論をしております。その中でオープンキャンパスということ自体、今年に1回というイベントで行っていますけれども、頻度を高めていくような方法がないのかどうか併せて議論をしているところがございます。

例えばのアイデアとしまして、検討中のものなのですが、今回科学大で開催させていただいたときに、オープンキャンパスに参加した学生が科学大のキャンパスもいろいろと見て回れるという状況にしておりました。今回は年に1回のプロジェクトとして磨き上げた取組であったんですけども、そうではなく、大学で行うオープンキャンパスの機会に合わせて、そこにANECの中で協力可能な方々が出て行ってサポートをするという活動もできないかという案を、我々自身もまだ議論し始めたところです。

去年近大と今年科学大とやらさせていただいて、すごく継続の要望が大きいなというのは我々自身も感じております。その期待に御要望にどのように応えるかということについては前向きに我々としても検討していきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(岡田委員) あとですけれども、6ページのところにIHIの女性が写ってますね、写真に。このときに、参加者じゃなくて協力の企業や大学から女性の説明者ってどのぐらいいらっしゃったのでしょうか。

(有林課長) 正確にカウントしてないのですが、一緒にいた者の話で、感覚的に言うと恐らく2割前後ではないかと思えます。

(岡田委員) そんなにいらっしゃったんですね。

(有林課長) はい。

(岡田委員) 是非女の子がこれだけ多いんですから、女性の技術者や科学者がここに来て説明するという機会も今後意識して増やしていただきたいなと思えます。

(有林課長) 御指摘ありがとうございます。

その点に関しましては、我々の方も当然ベテランの方に御説明していただくということもありますが、高校生の方がいらっしゃるのです、できるだけ若い方に、同じ目線で、自分たちの仕事について説明していただくのもいいだろうと思ひまして、そこは我々から要望を伝えていきながらうまくいったかなと思ひますので、今の御指摘も来年度以降検討する際

に留意させていただければと思います。よろしくお願いします。

(岡田委員) はい。

あともう一つ質問があるんですけども、空想科学、そして工学ということで、直井委員の質問と似てくるんですけども、原子力に携わるとどういう仕事という具体的な仕事みたいなのはここで紹介されているのでしょうか。

(有林課長) はい、ありがとうございます。

今回の空想科学の方につきましては、理科雄先生の方ではどちらかというとエネルギーに興味を持ってもらうために、身近な、例えば本の中に出てくるものが実は実際のエネルギーに換算してみると我々の世の中のエネルギーとこんなに密接に関連しているんですよという興味を湧くきっかけづくりとして御講演を頂きまして、後半の方の武田氏の方には、スタートアップとしてフュージョンという核融合の分野において、世の中で起こっている新しい動きについて説明をいただきました。

学生の中にも、私も全部のアンケートに目を通させていただいたんですけども、原子力だけではなくて、フュージョンというところまで含めて、こんなに新たな産業として生まれているのかという可能性に感動を持ったという学生もいたと思います。我々としては、講演は学生を喚起する方に重きを置かせていただいて、実際にどんな仕事があるのかという点については、ポスターセッションでそれぞれ原子力に関連する企業に参加していただいているので、そういった機会でも、例えば東芝がいたり三菱だったり、どんな技術を今開発してますという情報を直接説明を頂くことで学生に対して様々な興味を持っていただくことを狙っていました。

実際にアンケートの中でも、企業さんから直接お話を伺って、企業によってこんな特色があるんだとか、こういった安全性についての配慮が今なされているんだなという点についてはすごくよかったというアンケート結果も出ているところでございます。

(岡田委員) ありがとうございます。

私の方は以上なんですけど、私は初等中等教育に原子力や放射線分野の具体的な仕事を示してもらいたいと言われているんですよ。なので、できるだけ分かりやすい仕事という具体的な仕事を示してあげたいなと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(有林課長) しっかりと検討してまいります。よろしくお願いします。

(上坂委員長) それでは、小笠原参与からも専門的な観点から御意見を頂ければと思います。よろしくお願いします。

(小笠原参与) 御説明いただきまして、ありがとうございました。

この取組は私もすばらしい取組だと思います。特に官、学、民が一体となって有機的にアプローチされたということで、非常な成果も上げられたということでお喜び申し上げたいと思います。

また、スピーカーの選定等も、先ほど課長がおっしゃられたように、若い方をインスパイアするという観点から非常にいい方々を選ばれたのではないかなと思ひまして、この点も高く評価したいと思います。

私からは2点コメント、質問させていただきたいんですが、こんなすばらしいことなので、数多くいろんなところでなさったらいいんじゃないかと思ひます。予算の制約もございませうし、皆様もお忙しくていらっしゃるの、そういった人員面の制約もあろうかと思ひますが、応募は理科の先生に直接アプローチされて非常によかったということなんですけれども、この結果を残して普及するためには、オンライン等で動画等の形で後からいろんな方が御覧になれるように、またリクルートをしてくださってる理科の先生なんかの教材として使えるような試みをなされて、そういった制約がある中でこれの効果をより理想的なものにするということが期待できるんじゃないでしょうか、ということが1点目。

それから、2点目なんですけれども、原子力分野での人材の育成というのは本当に長期的にも重要なことだと痛感しておりますけれども、将来的にはどうしても国際的にも原子力分野での人材、タレントの争奪戦みたいなものが起こってくるのではないかと、もう既に起こっているのかもしれないけれども、という側面もあろうかと思ひます。

今回の取組はそういったことを目標にされたものではないと理解しますし、私も基本的には日本の学生さんがこういった分野で育ってくださることが一番重要だと思います。それから、外国の方をお招きする上では、核不拡散の分野等、より機微な問題からの考慮も必要でありであり、なかなか難しい面もあるのではないかと思ひます。

こういったオープンキャンパスの取組、その外国人材に対してのアプローチをどのようになさっているのか。あるいは、学生さん方にもしかすると留学生の方とかも混じっておられたんではないかと思ひますけれども、結果的にそういった方をはじめておられたという状況があるのかどうか、そこら辺についても御見解、御認識を伺わせていただければと思ひます。
(有林課長) 御指摘ありがとうございます。

まず1点目の、今回のイベント自体を動画としてより広く配信をして、教材として使えるようにという御指摘につきましてはごもっともだと思います。今回は動画として収録してい

ないのですが、次年度以降につきましては、我々の方も今いただいた御指摘踏まえまして、より広く配信していくという意味において、結果を周知していく上では、動画での配信も一つの手段かなと思います。今年は動画配信ができなかったのですが、次年度はしっかりそういった方向も企画の段階から念頭に入れていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

また、後者の方の外国人材の方についてです。こちらの方につきましては、対象としていくところが裾野を広げるというような活動ですので、情報もオープンな情報であり、特に企画運営する過程において外国人材について意識をして企画しているものではございません。

私自身が見て回っている感じでは当日いなかったのではないかと思います。ただ、仮に参加されていたとしても、知ってもらうきっかけをつくるということで、オープンソースの情報に基づいて行わせていただいていますので、懸念はございません。

ただ一方で、技術安全保障や経済安全保障等の問題がございますので、そういった観点につきましては、この対象ではないとは思いますが、経済産業省さん含め、様々な関係機関とも連携しながら対応していきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(上坂委員長) それでは、上坂から意見を述べさせていただきます。

まず、全体的には非常に素晴らしい活動で、特に高校生に対する大学での原子力教育、研究への入口になるのではないかと期待するところであります。小笠原参与と同じ意見なんです。是非ホームページやSNSで広く発信していただいて、もっと多くの参加できなかった全国の高校生にも視聴いただけるように、来年度以降はしていただきたいなと思いますし。

また、今回のような著名な柳田先生のような講義もYouTubeで公開しますと、多くの方が視聴されると思います。是非広く発信の方をよろしくお願いいたしますと思います。

それから、フォローアップも重要なことだと思ひまして、参加者の。現在大学で原子力に関する学科がほとんどない状況であります。原子力の学科がなくても、学部では原子力・放射線の講義、演習、ゼミナールをやっているところもあります。特に1年生のときにそれらを履修して、原子力系の学科の後期課程とか、更に大学院の専攻に進学いただくパスを、大学ではつくっているところもあるのですね。

そこで、そういうパスを、今後参加される大学の方々に見える化していただいて、以降のオープンキャンパス等で分かりやすく説明しているとよろしいかと思うのですね。この大学に行けばこういう講義取って、この学科・専攻に行けるのだなということが、非常に明確になるかと思うのですね。いかがでしょうか。

(有林課長) 御指摘ありがとうございます。

ホームページ、SNSでの発信につきましてはしっかりと今後に活かしていきたいと思
います。

また、参加者に今後のパスが見えるようにという点ですが、私も会場にいて、高校生と話をしていると、この高校生が本当に数年後にどこに行くんだろうと疑問が湧きまして、これだけ興味を持ってきている若い人たちへ原子力の道に進んだ先のビジョンをしっかりと示してあげることが大切と思っております。なので、我々もANECの場において検討するに当たって、まさに今回のオープンキャンパスのフォローアップとしまして、参加してくれた方々が自分の興味を持った方向に進めるように、それをしっかりサポートできるような仕組み、コンテンツであったり、また原子力業界におけるパスも提示できるような情報の提供があると思いますので、そういった気づきは今回のイベントを通じて感じましたので、これからのANECをどうしていくのかという議論の場にしっかりと取り入れて考えていきたいと考えております。

以上でございます。

(上坂委員長) それから、これはANECの今後に対する意見になるかもしれません。今回理科の先生を通じて学生を勧誘されたということ、岡田委員がおっしゃられたように、これはとてもいい選択だったかなと思います。昨年8月に原子力学会主催の中高での特徴ある放射線教育を頂いている先生の教育紹介ウェビナーがありました。私も参加しました。岡田委員も参加されまして。会場には見たところ対面で30名程度の先生が出席し、リモートで私、岡田委員含め約100名程度参加がありました。本当に工夫を凝らした質の高い講義、実験が多く実施されているのを知ることができました。是非これらの先生方の中高での教育活動もしっかりPRして行ってほしいなと思いました。

それから、そのときには文科省の方も講演されておりました。文科省では教科書の記述について、どの分野からももっと書いてほしいという要望が来ているということ。原子力・放射線のみ特別に対応はなかなか困難ですともおっしゃった。であれば、副読本も文科省つくっておられるし、課外授業や、原子力機関等が自主公開している理解増進活動が様々ありますので、そういうのを活用をしていかれたらどうかなと。先ほども言及があった研究所の施設紹介とか、大学のオープンキャンパスとか、研究紹介とか。そういうのも是非こういう活動とリンクされるといいかなと思うのですね。

多分恐らく各ブースで大学の先生はそういう話をされたかと思うのですけれども、そういうコンテンツがホームページみたいな形で見える化している。もっとここを勉強したい方は、

URLとかQRコードがついてるとか。そういう形で、多くの原子力機関の方が非常に分かりやすい教育コンテンツをつくっています。それをうまくリンクしていただけるとよろしいかと思えますし。また、中高校でも頑張っている先生の活動も、どんどん紹介した方がいいかなと思えます。

いかがでしょう。

(有林課長) はい、コメントいただきありがとうございます。

御指摘のとおりだと思いますので、特に中高の先生を支援する取組としまして、委員長から御指摘もございましたが、副読本による支援等、我々の方も行っておりますので、まさにそういった活動に引き続き取り組んでまいりたいと思えます。

また、大学や研究所のこういった活動をしているかというオープンな情報なども、興味のある学生がどこでどういう学びができるのかという情報をできるだけ分かりやすいような形で、可能であればワンストップ窓口のような体制をつくっていくことが大切だと思っております。その意味でもANECではホームページつくっていますが、そこを窓口に、必要な情報をできるだけ分かりやすい形で探せるように内容を拡充していく必要があると思えます。本日委員の方々からいただきましたコメントを踏まえ、更にホームページの拡充を図ってきたいというふうに思っております。引き続きよろしく願いいたします。

(上坂委員長) 私も大学にいるときに、1年生向けの初年次ゼミナールというのを原子力・放射線講義やりました。若い先生と一緒にやったのですけれども。核融合に興味ある学生がいて、見学したいというので、QSTにお願いして、JT60SAの見学に連れて行きました。そしたら3名来てくれてね、非常に興味持ってくれましたね。

それから、最後ですけれども、経済産業省の資源エネルギー庁の審議会で、第7次エネルギー基本計画の素案が公開されていると伺っております。ここでは原子力は2040年度には電源の2割程度が期待されて、再生可能エネルギーと共に脱炭素電源として最大限活用する案とされているようであります。

また、現在海外での日本企業が参画するSMRの計画も進められております。

このような環境で、来年度の原子力系大学院専攻及びそこにつながる大学の学科への志望者が増える可能性もあるかと思うのですね。

そういう状況ですので、是非この活動を続けていただきたく、また規模も今年以上になるようにお願いしたいと思えますが、いかがでしょうか。

(有林課長) 御指摘、本当に力強いお言葉いただいて、ありがとうございます。

当然予算の限度ありますものの、何とか工夫して少しでも御期待に添えるように対応していきたいと思います。今日いただきましたありがたいお言葉をANECの関係者一同に共有いたしまして、今後どのように改良していくのかという点を引き続き関係者で議論していきたいと思います。どうもありがとうございます。

(上坂委員長) 私から以上でございます。

ほかに委員から質問追加がございますか。よろしいですか。

はい。それでは、どうも有林様、ありがとうございました。

議題1は以上でございます。

次に、議題2について、事務局から説明をお願いします。

(山之内参事官) 今後の会議予定について御案内いたします。

次回の会議、定例会議につきましては12月24日火曜日14時、場所としては中央合同庁舎8号館8階818会議室になります。議題については調整中でございます。原子力委員会ホームページなどでお知らせさせていただければと思います。

以上でございます。

(上坂委員長) ありがとうございます。

その他の委員から何か発言ございますでしょうか。

では、発言がないようですので、これで本日の委員会を終了いたします。お疲れさまでした。

—了—